

令和元年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

令和元年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 プログラム

メインテーマ

「待ったなしの働き方改革 ～勤務医の立場から～」

総合司会：山形県医師会常任理事 間中 英夫

【日 程】

開 会

開会宣言 山形県医師会勤務医部会部会長 内村 文昭

挨拶 日本医師会会長 横倉 義武
山形県医師会会長 中目 千之

来賓祝辞 山形県知事 吉村美栄子
山形市長 佐藤 孝弘

特別講演Ⅰ

「日本医師会の医療政策」

日本医師会副会長 今村 聡
座長：山形県医師会副会長 中條 明夫

特別講演Ⅱ

「複眼的にものをみる」

山形大学医学部参与
国立がん研究センター名誉総長
東京脳神経センター所長 嘉山 孝正
座長：山形県医師会副会長 清治 邦夫

報 告

「日本医師会勤務医委員会報告」

日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良平

次期担当医師会挨拶 京都府医師会会長 松井 道宣

ランチョンセミナー

「慶應鶴岡発バイオテクノロジーが創る健康長寿社会」

慶應義塾大学先端生命科学研究所所長
慶應義塾大学環境情報学部教授 富田 勝
座長：山形県医師会会長 中目 千之

シンポジウムⅠ

「勤務医の働き方改革」

座長：山形県医師会常任理事 佐藤 慎哉
山形県医師会理事 多田 敏彦

「山形県における勤務環境に関する調査報告」

山形県医師会常任理事 間中 英夫

「医師の働き方改革の方向性」

厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長
加藤 琢真

「病院運営と働き方改革～現場の懸念」

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長
栗谷 義樹

「チームで支え合う働き方を目指して～誰もが活躍できるために～」

日本赤十字社医療センター第一産婦人科部長
木戸 道子

ディスカッション

シンポジウムⅡ

「生涯現役～勤務医定年後の明るい未来～」

座長：山形県医師会副会長 神村 裕子
山形県医師会常任理事 間中 英夫

「山形県内病院医師の定年退職後の働き方に関する調査報告」

山形県医師会常任理事 吉岡 信弥

「地域医療に必要なシニア世代医師の活躍」

八幡平市病院事業管理者
岩手県立病院名誉院長
岩手県医師会参与 望月 泉

「二度の公務員定年退職（米沢市立病院診療部長・山形県立米沢栄養大学教授）後、慢性期病院での勤務医師」

山形ロイヤル病院内科医師 八幡 芳和

「輝けるシニア医師 定年後の未来像」

愛知県医師会副会長 市川 朝洋

「山形大学医学部が提供する「リフレッシュ医学教育」」

山形大学医学部附属病院副病院長

山形県医師会常任理事 佐藤 慎哉

ディスカッション

やまがた宣言採択

山形県医師会勤務医部会副部会長 佐藤 光弥



理事 玉城 研太郎

2019年10月26日に全国医師会勤務医部会連絡協議会が山形県で開催され出席をいたしました。「待たなしの働き方改革」をテーマに朝から一日かけて大変熱い討議が繰り広げられました。青天井の医師の就労時間は、やはり解決すべき喫緊の課題であり、医療従事者の過重労働の改善に向け沖縄県医師会としましても皆様と一緒に対策を講じてまいりたいと思います。

さて本会の中でも色々と協議されました。厚生労働省より医師の働き方改革の国の指針についてご説明がありましたが、フロアより頭ごなしの就労時間の制限は医療崩壊を招くことにならないかという意見があり、わたくしもまさしくその通りだと思った次第です。繰り返しますが、医師の青天井の就労時間は過労死の問題や医療の質の担保の観点からも大変重要な施策であるところらに關しては疑うところではございません。しかしながら杓子定規の、就労時間ばかりにFocusを当てた働き方改革は少し慎重にならないといけないと考えております。例えば沖縄県ですと離島や遠隔地を多く有しており、これらの地域で通り一辺倒の就労時間の制限ということになりますと地域医療の崩壊を招く可能性がございます。医療資源の確保、財政の問題、医療の集約化あるいは地域行政、地域社会の情勢などを鑑みた改革が、この沖縄県においては特に重要だと考えているところで

す。同じセッションの中で東北大学第二外科の先輩でもございます、日本海総合病院の栗谷先生から、県立病院と市立酒田病院の合併を行い、その後の日本海総合病院の大躍進のお話をお伺いしました。荘内地域の医療の集約化によって、同地域の医療レベルの向上、そして病院そのものの黒字化、それに伴い十分な医療資源の確保や効率の良いタスクシェア・タスクシフトがで

きるようになり、働き方改革がうまくできている事例をお聞かせ頂きました。

沖縄県に於きましても北部地域の医療の集約化と必要な地域へ必要な医療の充足を社会全体として、荘内エリアを参考にしながら早急に行っていく必要があると再認識をした次第です。また不足する医療資源問題の解決策の一つとして、シルバー世代の医療資源の利活用のお話を前岩手県立中央病院院長の望月泉先生（こちら東北大学第二外科の先輩にあたりますが）よりご講演を頂きました。沖縄県の先輩医師の皆様は心身ともに皆様大変元気でございまして、フルタイムとは言いませんが、先輩方のお力を拝借しながら、質の高い充実した沖縄県の医療提供体制を創っていったらなあと、わたくし自身も今後とも沖縄県の医療のために尽力をしてみたいと思います。



**沖縄県医師会勤務医部会
部会長 西原 実**

山形へ行ってまいりました。山形へ行くのは初めてのことで、どういう経路で行くべきか迷いましたが、色々

と調べてみると、仙台からバスが出ていることがわかりました（しかも相当に安い値段で）。仙台空港から1時間強バスに揺られて行きましたが、残念ながら夕方5時すぎには、外はすっかり暗くなっており、景色を楽しむことはできませんでした。

中目千之山形県医師会会長、吉村美栄子山形県知事のご挨拶の後、今村聡日本医師会副会長による特別講演1『日本医師会の医療政策』がスタートしました。印象的な言葉として『防ぐ～支える』があり、予防、健康づくりの推進に向けて取り組んでいることを強調しておられました。元気な高齢者の増加（医療費、介護費の抑制につながる）、共助、公助に対する国費の増額、医師の健康への配慮（長時間労働に

対する健康確保措置)、地域医療の継続性などについても話しておられました。

続く嘉山孝正山形医学部参与による特別講演2では『複眼的にもものを見る』というお話がありましたが、一度拝聴するだけでは、理解することは困難でした。しかし、その中でも印象に残った内容としては、組織型検診が大事ということでした。すなわち、1:対象集団の明確化、2:対象となる個人が特定されている、3:高い受診率を確保する体制、――。これは、がん検診の闇雲な検診率向上が良いのか、という疑問から起こったようです。5大がんの検証すらなされていないことを非常に危惧しておられました。また、論文数の異常な減り方は、研究業務の決定過程、医療業務の決定過程、政策決定過程に問題があると訴えておられました。

慶應義塾大学先端生命化学研究所所長兼慶應義塾大学環境情報学部教授の富田勝先生によって、『慶應鶴岡発バイオテクノロジーが創る健康長寿社会』と題する講演が行われました。この講演には非常に感銘を受けました。鶴岡市に慶應大学が研究所を作ったのですが、これは時の鶴岡市長の、30～50年後に花開くようなプロジェクトのタネをまいてほしい、という一言によるものだそうです。現在地元の高校からも人材を募っており、高校生も参加できるような事業になっているとのことでした。この研究所から6～8社が起業しているようです。あらためて行政の力を印象付けられました。

午後に入り『勤務医の働き方改革』と題してシンポジウム1が行われました。

まず、間中英夫山形県医師会常任理事から、『山形県における勤務環境に関する調査報告』が行われ、勤務医の勤務環境の厳しさがあらためて示されました。

続いて厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長の加藤琢真氏より『医師の働き方改革の方向性』という講演がありました。これは

現在議論されている1,960時間、インターバル9時間、タスクシフト、応召義務、宿日直や研鑽について、研鑽と業務の差、特定行為研修制度などについての詳しい説明でした。

続いて、独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長の栗谷義樹先生から『病院運営と働き方改革～現場の懸念～』の講演がなされました。面白かったのが、AI問診のUbie、お薬サマリーUbieを活用することで、カルテ記載が8分短縮され、その結果外来回転が早くなった、という話でした。

最後に日本赤十字社医療センター第一産婦人科部長の木戸道子先生より『チームで支え合う働き方を目指して～誰もが活躍できるために～』という講演がなされました。自院の産婦人科を二交代制勤務としたことで連続勤務が半分以下になり、育児中もシニアもシフトを担当できるようになったそうです。しかし、これにより日中の人員の不足、勤務医の収入減(夜勤するたびに勤務時間と給料が減る)、診療継続性の低下、研鑽、自己研鑽への懸念などが出現したようです。これに対しては、妊産婦の妊婦健診を地域の診療所の先生に担ってもらおうといった病診連携、医師間の引き継ぎの充実、住民の理解を得るなどの努力を行なったそうです。これらにより接遇の向上、救急応需の向上、生産性の向上が見られたとのことでした。一見良いように見えますが、やはり都会の大病院で、その科の人数が十分に揃っている状態でなければ無理な話だと感じましたし、木戸先生もそのように話されていました。

この後、シンポジウム2、山形宣言と続くのですが、力尽きました。この辺で筆を置こうと思います。来年は京都ですよ。皆さん、勉強に行きましょう。

※会の内容については上記の通りとなっており、報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
URL: <http://www.okinawa.med.or.jp/html/hokoku/2019/mokuji.html>